研修企画書

裵 鎬洙（ペ ホス）
ミカタプラス
MAIL：contact@en-coach.com

【タイトル】

「理由を探る認知症ケア」入門編
～関わる人の“視点”と“発想”を切り替える３つのコツ～

【対象者】

- 認知症当事者に関わる介護者（家族・専門職問わず）
- 職員が介護者目線ではなく、認知症当事者の目線に立って、考えて、行動できるようにするための教え方を学びたい方
- リアルな実例を通して学ぶ認知症研修を探しておられる方

【受講で得られる主なメリット】

- 認知症当事者の目線で「問題」を捉えるコツがつかめる
- 新人教育やスタッフ指導における教え方が学べる
- 自分が関わっている方に、自立支援の観点で自分にできることが見つけられる

【コンセプト（概要）】

多くの場合、わたしたちが認知症当事者の方と出会う時、「認知症がある」という情報とともに出会います。そのため、「人」ではなく「認知症」にフォーカスが当たってしまい、利用者の言動を「認知症」と紐づけて解釈するクセを身につけがちです。

理由を探る認知症ケアでは、このクセを持っていることに気づき、利用者の言動を「認知症」ではなく「人」という視点から捉えなおす作業を、ひとつずつ押さえます。

認知症当事者の方への関わりの悩みの大半は「コミュニケーションのとりにくさ」から生じています。そのため、介護者の関心は、自然と「こういう時は、どう（対応・対処）したらいいの？」と、『手立て』に偏りがちな側面があります。しかし、その『手立て』が利用者にとって適切かどうかを決めるのは『見立て』によります。

この研修では、その『見立て』の観点を増やし、利用者の言動の理由を探るケアを実践できるようになるための基礎を、グループワークも交えながら学ぶことができます。

【所要時間】

基本２時間（60分～180分で調整可）

【講師料】

参加人数・時間により応相談

【内容】

<u>１）質問を変えてケアの根拠を増やす</u>

・「どう対応したらいいのか？」という問いの本質
・ケアで困った時の適切な問い

©Mikataplus

２）“問題”の表現を変える

・知識がアセスメントの邪魔をする？！
・問題の表現を変える方法その１
・問題の表現を変える方法その２

３）人の反応プロセスを踏まえた観察

・反応プロセスを３段階でとらえる
①本人のプロセス
②周囲の人のプロセス

４）意外と見落としがちな要素

・引き金になる介護者の関わり方

【参加者の声】

- 正直、目から鱗のウロコの内容でした。この考え方は、認知症の方に限らず、子どもや部下との関わりでも大切だと思います。（グループホーム管理者・40代）
- 利用者さんを思い出しながら講義を聴いて、まだまだやれることがたくさんある！と元気になってきました。（介護施設相談員・30代）
- スタッフへの指導のヒントを頂きました。（サービス提供責任者・50代）

【研修実施の流れ】

①お問い合わせ
②お打ち合わせ（研修目標・内容・日時・講師料等の確認・合意）
③事前準備物の確認
④研修実施・アンケート回収
⑤請求・お支払い

©Mikataplus

研修企画書

裵 鎬洙（ペ ホス）
ミカタプラス
MAIL：contact@en-coach.com

【タイトル】

「理由を探る認知症ケア」基礎編
～不可解に思える利用者の言動を理解するコツをつかむ～

【対象者】

- 認知症当事者に関わる介護者（家族・専門職問わず）
- 職員が介護者目線ではなく、認知症当事者の目線に立って、考えて、行動できるようにするための教え方を学びたい方
- リアルな実例を通して学ぶ認知症研修を探しておられる方

【受講で得られる主なメリット】

- 認知症当事者の目線で「問題」を捉えるコツがつかめる
- 新人教育やスタッフ指導における教え方が学べる
- 自分が関わっている方に、自立支援の観点で自分にできることが見つけられる

【コンセプト（概要）】

多くの場合、わたしたちが認知症当事者の方と出会う時、「認知症がある」という情報とともに出会います。そのため、「人」ではなく「認知症」にフォーカスが当たってしまい、利用者の言動を「認知症」と紐づけて解釈するクセを身につけがちです。

理由を探る認知症ケアでは、このクセを持っていることに気づき、利用者の言動を「認知症」ではなく「人」という視点から捉えなおす作業を、ひとつずつ押さえます。

認知症当事者の方への関わりの悩みの大半は「コミュニケーションのとりにくさ」から生じています。そのため、介護者の関心は、自然と「こういう時は、どう（対応・対処）したらいいの？」と、『手立て』に偏りがちな側面があります。しかし、その『手立て』が利用者にとって適切かどうかを決めるのは『見立て』によります。

この「基礎編」では、その『見立て』の実力を伸ばすために、▲「認知症」というフィルターを通して利用者の言動を捉えていることに気づく、▲認知症がある利用者の言動を理解しようとする時の観察ポイントを理解する、この2点をグループワークも交えながら学ぶことができます。

【所要時間】

基本２時間（60分～180分で調整可）

【講師料】

参加人数・時間により応相談

【内容】

<u>１）理由を探る邪魔をする「箱」</u>

・自動的に「認知症だから」と捉えるメカニズム

©Mikataplus

・「箱」にとらわれるプロセス
・「箱」から解放されるプロセス

2）「場面」をアセスメントする
・具体的な観察ポイント（４つの引き出し）を学ぶ
・引き出しの中身を増やすワークショップ

3）よくあるアセスメントの落とし穴
・ごちゃまぜアセスメントの限界
・「良い状態」は関わりのヒントの宝庫

【参加者の声】

- 利用者の行動を「認知症」のせいにしているつもりはなかったのですが、無意識にそうなっていたことに気づけてよかったです。（介護支援専門員・30代）
- 多職種でアセスメントする際に、4つの引き出しが共有できていれば、もっと連携しやすくなると思いました。（サービス提供責任者・40代）
- ごちゃまぜアセスメントは、対話で課題を見出していく時に論点がズレる原因になることがよくわかりました。（主任介護支援専門員・50代）

【研修実施の流れ】

①お問い合わせ
②お打ち合わせ（研修目標・内容・日時・講師料等の確認・合意）
③事前準備物の確認
④研修実施・アンケート回収
⑤請求・お支払い

©Mikataplus